

令和元年度 第5回音更町総合計画審議会(書面開催)に係る回答状況

No.	所 属	氏 名	質 問 ・ 意 見 等 の 概 要		備 考	
			(1) 第1期総合戦略の延長について	承認		(2) 音更町のまちづくりに対する意見等について
1	音更町介護保険・地域包括ケア協議会 会長	阿部 郁代	なし	○	なし	
2	音更町文化協会 会長	岡田 哲男	総合戦略においては、人口減少問題に しっかり取り組むことが最重要課題と考 える。	○	<p>「1 経済・産業・雇用(働き方)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 働く場の確保のため企業誘致の実現 ● 音更町の基幹産業である農業を守るための担い手不足の解消。 ● 道の駅の愛称募集、温泉までをつなぐルート設定等、更なる観光開発。 例) 町の観光名所について、ルートマップを道の駅で無料配布したり、 広報を活用した特集の掲載。(写真は町内写真クラブに協力依頼) 「音更町史跡文化材一覧」を参考にした、史跡巡りルートづくり。 <p>「2 自然環境と生活基盤」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「自然災害が少なく、安心して住める町」を宣言していくため、 地理的条件や過去数十年の災害事例等を他の地域と比較検証する。 また、音更川と十勝川の合流地点にある宝来地区などの防災を強化。 ● 散歩コースの整備 例) 文化センターを発着点に、図書館、基線、むつみ公園を折り返し。 道中、運動器具やベンチを設置。目に見える体験型の施策も考慮。 <p>「3 教育・学習・文化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者と子どもの交流の場は必要。若い子育て世代を巻き込んで 賑わいのある町にする。 ● 音更を知り、文化財を守り、歴史を振り返るための場所として、 そして町民の心のふるさととして、博物館は必要。 <p>「4 健康と福祉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小学生まで医療費の無料化を検討してほしい。 <p>「5 行財政運営・コミュニティ・協働等」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 町内会を支え、協働につなげていくため、町内会との連携を強化。 ● 閉校した校舎をコミュニティや文化活動、起業の場として活用。 ● 音更のPRが不足している。「〇〇のまち音更」と言えるようにする。 <p>「※ その他」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 町は人でできており、人が減ると痩せ衰える。健康でいるためには 町の魅力化、PRにより、人の流れ(血液)を呼び込むことが重要。 	
3	帯広大谷短期大学 副学長	岡庭 義行	なし	○	なし	会長
4	公募 (宝来地区町内会 連合会会長)	小川 賢一	なし	○	なし	

令和元年度 第5回音更町総合計画審議会(書面開催)に係る回答状況

No.	所 属	氏 名	質 問 ・ 意 見 等 の 概 要		備 考
			(1) 第1期総合戦略の延長について	承認	
5	公募 (帯広信用金庫 音更支店長)	梶谷 徹也	なし	○	<p>「1 経済・産業・雇用(働き方)」</p> <p>標題の区分における課題認識に次の視点を取り入れてはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I C工業団地拡大などの企業誘致スペースの確保 ・ 農業も含む全ての事業者への事業承継支援 ・ スマートI Cと十勝川温泉のつながりの拡充 ・ 住宅用地の拡充(町有地の活用)
6	音更町社会福祉協議会 会長	河田さえ子	音更町は宅地の価格が高いため、若い世代が家を持ちにくい。実質賃金下がりが、生活資金が十分でない環境で、多くの子どもを産み育てていくことができるのか。人口の自然増は期待できるのか。現実的な人口推計が必要である。	○	<p>「1 経済・産業・雇用(働き方)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 施設の老朽化や、自然災害の多発による観光客への影響なども十分に承知しているが、十勝川温泉がより楽しめる場所となるよう、また、他の観光地との差別化が図られるよう魅力向上につながる取組や工夫について、いま一度検討していく必要がある。 <p>「2 自然環境と生活基盤」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今般の新型コロナウイルス感染症の発生や、近年におけるインフルエンザ流行などに鑑み、町としての防疫対策に関する方針をより明確化するなどし、町民に分かりやすい形で確実に情報発信していくことが求められる。 <p>「4 健康と福祉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 近年、自然災害が多発しているが、女性目線からの防災対策が十分でないように思う。例えば、避難所を開設した際に、女性や子どもが暴力被害などに遭うことがないように、トイレや居住スペースを明るくしたり、プライバシーに配慮したつくりをしたりと、安心して過ごせるような配慮が必要である。
7	音更町民生児童委員 協議会 会長	白木 幸久	なし	○	<p>下記の各区分における課題認識に次の視点を取り入れてはどうか。</p> <p>「3 教育・学習・文化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生の居場所づくりに向けて ● 本町では学童保育所を民間委託するなど、施設整備を含め、取組が進んでいるほうだと思う。小学生の居場所づくりについて、新・放課後子ども総合プランでは、学校施設を積極活用することになっているが、本町では難しいものと考えている。木野地区にある北部児童館は館名から推察すれば、児童福祉施設における児童厚生施設と思われるが、小学生の居場所にはなり得ていない。「音更町児童福祉施設の整備等に関する計画」によると、下音更学童保育所は木野北保育園に児童館を加えた一体的な整備を検討することになっているが、この方向性により、木野地区での小学生の居場所づくりを進めてもらいたい。同じく本町地区においても、役場南側にあった児童会館は取り壊し後に役場の駐車場となったが、小学生の居場所づくりに向けて、ひまわりの家学童保育所(開設年度：昭和46年旧公宅)に児童館を加えた一体的な整備を検討するのが妥当と考える。 <p>「4 健康と福祉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士不足の解消に向けて ● 本町では、病児保育など、安心して子育てできる環境の整備については、かなり先進的だと思う。待機児童対策に向けて、保育士不足を解消するために、地元の帯広大谷短大ともっと連携を図ってもらいたい(保育部門においても介護部門と同じく奨学金制度を創設するなど)。 ・ 子育てにやさしい企業の育成に向けて ● 子育て中の共働き世帯を支援していくには、職場が働き方改革・働きやすい環境を整備していくことが求められる。そのような企業については町としても表彰・評価・支援する仕組みを作ってもらいたい(社会貢献活動を行う建設事業者が入札参加審査で加点される例に倣うなど)。 <p>「1 経済・産業・雇用(働き方)」</p> <p>「5 行財政運営・コミュニティ・協働等」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駒場地区の活性化に向けて ● 町民ワークショップ等では、十勝川温泉地区への意見は多数あり賛同するが、駒場地区には関心が薄いように感じた。駒場地区は保育園から高校まで設置され、全国有数の種畜牧場もあり、魅力的な地域である。テレワークに対応できる環境を整備することにより、移住を推進してもらいたい。また、そのための一環として駒場地区へ食料品店を誘致してもらいたい(新設中の「道の駅」の運営業者の要件に、食料品店の開設を加えてはどうか)。
8	音更高等学校校長	鈴木 淳	なし	○	なし

令和元年度 第5回音更町総合計画審議会(書面開催)に係る回答状況

No.	所 属	氏 名	質 問 ・ 意 見 等 の 概 要		備 考
			(1) 第1期総合戦略の延長について	承認	
9	公募 (北蘭西 婦人部長)	田中 和子	なし	○	<p>「4 健康と福祉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今般の新型コロナウイルスの流行を受け、感染症に対する項目を設けるなど、町として、どのような安全対策を行っていくのか方針を明確化するべき。 <p>「5 行財政運営・コミュニティ・協働等」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 町ホームページにおいて、新型コロナウイルスの関連情報が迅速に発信されていなかった。この点も踏まえた上で、ホームページの充実を図ってほしい。
10	音更町農業協同組合 代表理事専務	土田 純雄	なし	○	なし
11	音更町都市計画審議会 委員	東端 恭子	<p>「総合計画」と「総合戦略」は、共に町としての基本姿勢はどうあるべきか、町政をどう進めるべきかについて示すものであり、密接に関係するため、現行戦略を延長して進捗管理を一本化し、策定を行うことは必要な措置と考える。</p> <p>町内の数箇所宅地造成が進められ、ある程度人口は増えてきたものの、緩やかな、もしくは減少が認められる動態の中で、まちの姿を「人的」、「物的」の両側面から評価し、課題を踏まえ、「住民一人ひとりを大切に思う気持ち」で、真摯に施策に取り組むことが重要と考える。</p>	○	<p>「1 経済・産業・雇用(働き方)」</p> <p>「2 自然環境と生活基盤」</p> <p>「3 教育・学習・文化」</p> <p>「4 健康と福祉」</p> <p>「5 行財政運営・コミュニティ・協働等」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ワークショップやアンケートを通じて町民から出された「まちづくりに対する意見等」は、全体的に「自分たちの生活に密着すること」に対する声が多い傾向があるように思う。今、町民がどのようなことに不安を感じ、今後はどういったことを望んでいるのか。短期的、長期的に見たとき、それらは実現可能か。また、そのためには何が必要なのか区分ごとに考察していくことが求められるのではないかと考える。一つひとつの声に丁寧に向き合うことで、町民一人ひとりの満足度が少しでも向上し、音更町を「住みやすい」、「住み続けたい」まちだと思っていただくことが重要である。「まちづくり」は、「ひとづくり」でもあるのではないかと考える。
12	公募 (東土幌連合会 会長)	西川 俊満	なし	○	なし

令和元年度 第5回音更町総合計画審議会(書面開催)に係る回答状況

No.	所 属	氏 名	質 問 ・ 意 見 等 の 概 要		備 考
			(1) 第1期総合戦略の延長について	承認	
13	公募 (緑陽台仲区西 総務部長)	野久 和典	次期総合計画と次期総合戦略の始期を一致させ、整合性を図ることにより、進捗管理等の整理がしやすくなるため、現行戦略の1年延長を承認する。	○	<p>「1 経済・産業・雇用(働き方)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 担い手の確保対策が重要である一方で、関税撤廃の動向等に鑑み、農畜産業における国際競争力の強化、農業生産活動の低コスト化、IoTの活用、大規模化・法人化を推進する方法を検討してはどうか。 ● 町外からの入込客数の増加につなげるため、町の特産品や観光資源については、他の地域との差別化が図られるような工夫を要する。 ● 「企業経営」と「勤労者の保護」が課題として上げられているが、雇用主と従業員では利害関係が相反しがちのため、「従業員の生活改善」を目指すなど、意見の統一に向けた調整が必要ではないか。 <p>「2 自然環境と生活基盤」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「空き家対策と遊休施設の活用」は区分の5「行財政運営・コミュニティ・協働等」での整理が適切ではないか。 ● 次期戦略の策定に向け、町としての循環型社会へのアプローチを早い段階から具体化していく必要がある。 <p>「3 教育・学習・文化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「人を呼び込む人づくり教育」、「まちづくりの核としての教育」とあり、これらによって人のつながりを大切に、地域の結束と魅力を高めるのだと思われるが、具体的な教育手法について明確化すべき。 <p>「4 健康と福祉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「子育てがしやすい環境の整備」、「消費者の保護」は区分の2「自然環境と生活基盤」で整理し、「コミュニティによる見守り」は5「行財政運営・コミュニティ・協働等」での整理が適切ではないか。 <p>「5 行財政運営・コミュニティ・協働等」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● まちの情報を広報の誌面上に書いて町内会で配布するだけでなく、町内会への行政の指導や助力を強化するためのプラスαの取組として、例えば出前講座などにより日常的に情報・意見の交換を図ってはどうか。 <p>「※ その他」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 想定人口の達成には「安定した就労の場の確保」が必須。審議会で共通認識を持つため、正規・非正規職員の割合と所得区分の実態把握が必要。
14	音更町商工会 副会長	野村 泰司	なし	○	なし
15	公募 (北海道連合会 音更地区連合会 会長)	畠 弘之	なし	○	<p>「1 経済・産業・雇用(働き方)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 若者の非正規雇用、女性の育児離職への対策として、地域における課題を探り、啓発活動、施策の反映につなげる。 <p>「4 健康と福祉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医療、介護、福祉連携の具現化。
16	音更町住宅委員会 副委員長	波多野実嗣	なし	○	なし

令和元年度 第5回音更町総合計画審議会(書面開催)に係る回答状況

No.	所 属	氏 名	質 問 ・ 意 見 等 の 概 要		備 考	
			(1) 第1期総合戦略の延長について	承認		(2) 音更町のまちづくりに対する意見等について
17	音更町十勝川温泉 観光協会 会長	林 文昭	なし	○	<p>「1 経済・産業・雇用(働き方)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光振興については様々な策はあるものの、観光に対する理念がなく、ビジョンがはっきりとしない。魅力的な十勝川温泉街にするため、観光客に喜んでもらうため、町は財源を伴う「覚悟ある姿勢」と「方向性」を示すべき。 	会長代理
18	音更町社会教育委員 協議会 会長	藤川 幸二	なし	○	<p>「5 行財政運営・コミュニティ・協働等」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少は税収の減にもつながり、持続可能なまちづくりが困難となる。このことから、その縮減へと導く方向性を明確にすることが重要と考える。 	
19	音更町校長会 経営部長 (鈴蘭小学校 校長)	宮村久美子	なし	○	<p>「3 教育・学習・文化」</p> <p>標題の区分における課題認識に次の視点を取り入れてはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高齢者と若者、子どものふれあいの「場」づくり」 <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者と子どもたちのふれあいや交流を進めるためには、学校の教育課程に位置付けることが重要。高齢者から学ぶことは多々ある。例えば、低学年であれば昔の遊び、中学年であれば昔の暮らし、高学年であれば地域の歴史など。これらを全町教育として教育課程に位置付ける「音更スタイル」を進めてはどうか。そのためには町がコーディネーターを配置し、高齢者と学校をつなぐことが重要。 ・「人を呼び込む人づくり教育の全町取組」 <ul style="list-style-type: none"> ● 教育に手厚い音更町というイメージが広がると移住者が増える。少人数学級を更に進めて全学年30人学級にしてはどうか。これにより、一人ひとりにきめ細かで質の高い教育を行うことができ、教員が指導力を高める時間も確保できる。 ● 音更町の魅力である自校給食を音更高校にも広げてはどうか。入学希望者の増につながると思う。 ・「まちづくりの核としての教育・学校」 <ul style="list-style-type: none"> ● 小中高生を対象としたワークショップや講習会の開催等により、「SDGsの理念を教育現場に浸透させる取組」を推進してはどうか。柔軟な頭と心を持った子ども時代から継続して取り組むことにより、SDGsの理念が子どもたちに根付くように思う。 	
20	十勝毎日新聞社 編集局整理部 副部長	古川 雄介	なし	○	<p>「2 自然環境と生活基盤」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町民からも意見が出ている「住環境の整備」が課題の中に必要ではないか。「空き家対策と遊休施設の活用」だけでは、この区分の対策として十分でないため、「人口増に直結する宅地造成」を含めた課題設定が必要になるものと考ええる。 	